

五戸総合病院での研修を終えて

(平成 30 年 11 月研修医)

八戸赤十字病院

初期臨床研修医 大島広之

1 ヶ月間、地域医療の一環として五戸総合病院の外科と眼科で研修させていただきました。地域医療とはいえ、出身が八戸のため、さほど心理的には距離は感じておりませんでした。しかし、山道のアップダウンをほぼノンストップで越えて片道 30 分かかる道のりを経て、近いようで遠い物理的な距離感を体感しました。八戸と五戸の往復は簡単なものではありません。外科であろうと内科であろうと、歩ける人も寝たきりの人も受け入れる、町を担う病院の役割を肌で感じました。

これまで急性期病院で研修していたため、急性期治療を終えた患者さんが転院先や施設でどのような生活を送っているのか漠然としたイメージしかありませんでした。この 1 ヶ月、開放感のある施設で伸び伸びと過ごす姿、入院患者さん同士が仲良くなり廊下で談笑している姿、かたや静かにゆっくりと終末を迎えていく姿などを見届けて、想像を体験に換えることができました。まだ上手く言語化できませんが、人それぞれにそれぞれの人生があることを考えさせられました。

研修中、粉瘤や陥入爪の術者をやる機会も与えていただきました。手順としてはそう難しくなくとも、実際にやってみるとイメージ通りに進まず、手を動かすことの奥深さを学びました。生命に直接関わるものではないですが、“自分の手で治した”という達成感は何に得難いものだと感じました。未熟な手技を優しく見守ってくださった方々にはご迷惑をおかけしました。将来進もうとしている眼科での手術技術向上のため鍛錬します。

病院外でも五戸の四季の変化、木々に囲まれた温泉、郷土の料理を味わいました。安藤院長、小林先生はじめ、このような貴重な機会を設けてくださった方々に心から御礼申し上げます。また馬肉が美味しい季節にお邪魔したいと思います。